

THE RECORD

社団法人 日本レコード協会

平成7年11月1日発行

RECORDING INDUSTRY ASSOCIATION OF JAPAN

〒104 東京都中央区銀座7-16-3 Tel (3541) 4411(代)

平成7年11月号 No. 432



感謝の意味を込めて、今年1年間に廃盤となったCD、レコード、ビデオセルは、レコードファンへの感謝の意を込めて、今年1年間に廃盤となったCD、レコード、ビデオセルは、レコードファンへの

レコードファン感謝祭 廃盤特別謝恩セール開催

今年も、10月21日、22日の2日間にわたり、東京都港区の東京タワーボーリングセンター1F催事場において当協会加盟30社主催、当協会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会協賛による「レコードファン感謝祭'95 廃盤特別謝恩セール」が開催されました。

オカセット、ビデオディスク等と一緒に出品、70%の割引で販売するものです。平成4年度より毎年開催されており、今年で4回目となりました。

今回の出品数は、アナログディスク(25、30cm)、CD(12cm)、ビデオ(VD、VT)の七、四〇〇タイトル、23万枚で、昨年と比較して、10%強減少しました。

今年も、初日、2日目共、穏やかな好天に恵まれ、両日共、熱心なファンが開場前から会場前に集まり長い行列をつくるなど、多くのレコードファンが来場されました。

入場者数は、初日四、三〇〇人、2日目共二、三〇〇人の合計六、六

場 所	'92 東京都立産業貿易センター	'93 東京タワー・ボウリングセンター	'94 東京タワー・ボウリングセンター	'95 東京タワー・ボウリングセンター
入場者数	11月7日 4,400人	10月23日 5,794人	10月29日 4,596人	10月21日 4,295人
購入客数	4,136人	4,766人	4,009人	3,744人
購入率	94%	82%	91%	87%
売上総枚数	29,703枚	30,900枚	36,363枚	46,017枚
売上総額(千円)	25,147千円	25,552千円	32,852千円	40,174千円
客単価	6,080円	5,361円	8,195円	10,730円
平均購入枚数	7.2枚	6.5枚	9.1枚	12.3枚
入場者数	11月8日 6,400人	10月24日 4,575人	10月30日 2,979人	10月22日 2,288人
購入客数	4,913人	3,249人	2,264人	1,830人
購入率	77%	71%	76%	80%
売上総枚数	27,394枚	20,166枚	18,372枚	17,709枚
売上総額(千円)	22,095千円	15,217千円	15,092千円	14,135千円
客単価	4,497円	4,684円	6,666円	7,724円
平均購入枚数	5.6枚	6.2枚	8.1枚	9.7枚
合 計	合 計	合 計	合 計	合 計
入場者数	10,800人	10,369人	7,575人	6,583人
購入客数	9,049人	8,015人	6,273人	5,574人
購入率	84%	77%	83%	85%
売上総枚数	57,097枚	51,066枚	54,735枚	63,726枚
売上総額(千円)	47,242千円	40,769千円	47,944千円	54,309千円
客単価	5,221円	5,087円	7,643円	9,743円
平均購入枚数	6.3枚	6.4枚	8.7枚	11.4枚
出品枚数	190,000枚	183,000枚	265,000枚	235,000枚
出品タイトル数	20,800W	10,500W	8,250W	7,425W

廃盤セール実績

〇〇人で、初日、2日目共、昨年を下回りましたが、売り上げは、初日が4万6千枚／4千万円、2日目が一万8千枚／1千4百万円の合計6万4千枚／5千4百万円と、枚数、金額共、過去最高となりました。入場者数の減少傾向及び、購入率、客単価の上昇傾向は、昨年と同様の結果です。

最後になりましたが、廃盤セール委員のみなさんをはじめ、メーカー各社からの応援スタッフのみなさん今年も、2日間、本当にご苦労さまでした。

音楽文化懇談会発足

11月6日、当協会を含む音楽関連10団体が「音楽文化懇談会」を発足、当協会にて設立会議を開催、また、同日、公正取引委員会、通産省、文化庁に「商業用レコードの再販制度存続に関する要望書」を提出しました。

当会は、昭和28年以来、40年以上の間数多くの音楽家を育て日本の音楽文化を守ってきた、レコード、音楽テープ、音楽用CDの再販制度存続のための運動をはじめとし、日本の音楽文化の繁栄に寄与する活動を行うことを目的としています。今後、音楽文化、芸能文化発展のための社会的、文化的活動、再販制度存続のための活動、著作権思想普及、啓蒙に関する活動等を中心に行っていく予定です。

下記に、その要望書の全文を掲載します。

構成団体・代表者名（敬称略）

(財)日本音楽著作権協会 会長 遠藤 実

(財)日本芸能実演家団体協議会 会長 中村 歌右衛門

(財)日本レコード協会 会長 松尾 修吾

(財)音楽出版社協会 理事長 渡邊 美佐

(財)日本音楽事業者協会 理事長 田邊 昭知

(財)音楽制作者連盟 理事長 後藤 豊

(財)日本歌手協会 会長 田端 義夫

日本音楽作家団体協議会 会長 中田 喜直

日本レコード商業組合 理事長 矢島 靖夫

全国レコード卸同業会 会長 飯原 茂

商業用レコードの再販制度 存続に関する要望書

音楽文化懇談会

要旨

私達は、以下の理由により、40年余りの永きにわたり数多くの音楽家を育て、我が国の音楽文化を守ってきたレコード、音楽テープ、音楽用CDの再販制度が引き続き存続されるよう、強く要望します。

一、レコード、音楽テープ、音楽用CDの再販制度は、我が国の音楽文化を守り育ててきました。

(一)文化は、多様な作品の創造と、それを受けとめるユーザーの厳しい目によって生み出され、育てられています。

日本は、再販制度により、音楽用CD等では世界一の作品数を誇っており、一方我が国のユーザーは、多様な音楽との出会いの機会により日本の音楽文化を育てています。

(二)世の中に発表される作品数の多さは、可能性を秘めた新人に対しても幅広く機会を与えることとなり、必然的に、次代を担う新しい才能を育ててきました。

(三)レコード、音楽テープ、音楽用CDの商品価格の安定は、作家やアーティストの生活を支え、「音楽創造のリサイクル」を円滑に循環させています。

(四)再販制度により、全国のどこでも同じ価格で音楽用CD等を買うこととなり、地域による文化

格差の解消に役立っています。

二、レコード、音楽テープ、音楽用CDの再販制度は、消費者にとっても大きなメリットとなっています。

音楽用CD等の商品に対し、消費者が真に求めているのは、価格の安さもあることながら、本当に自分の心を満たしてくれるCDを見つけること、そして、それを可能にする音楽作品の幅の広さです。

ちなみに、日本で一年間に発売される音楽作品の種類は、世界最大の音楽市場、アメリカの三倍にもなっています。

三、安定した日本の音楽マーケットは、海外の作家やアーティストからも高い評価を受けています。

米国レコード協会のバーマン会長は、再販制度の下、健全な発展を遂げ、世界第二位のマーケットを築く迄になった我が国のレコード業界の現状を高く評価し、我が国の政府関係者等に対し、音楽用CD等の再販制度の取扱いについて慎重に対応するよう求めています。

四、音楽は、若者にとって今や生活必需品であり、又、国境を越えて人々の心の中に受け入れられる重要なコミュニケーションツールとなっています。このような音楽著作物を、再販制度の検討の場において、新聞、書籍等の活字著作物と差別して取り扱われることのないよう、強く要望します。

平成七年十一月六日

民生用CD-Rの 取り扱いについての要望書提出

昨年12月に、民生用CD-R問題の解決に取り組む目的で国内の権利者6団体（㈱日本音楽著作権協会、㈱日本芸能実演家団体協議会、㈱日本レコード協会、㈱音楽出版社協会、㈱日本音楽事業者協会、㈱音楽制作者連盟）により設立された「CD-R問題対策会議」では、「代表者会議」「連絡者会議」「損害予測調査プロジェクト」「現行制度研究プロジェクト」を設置、その後、損害予測調査プロジェクトでは、㈱野村総合研究所と共同で損害予測調査を行い、今年9月までに調査結果を『民生用CD-Rの商品化に伴う著作権等への経済的影響に関する調査報告書』として取りまとめました。

この調査報告書によると、現在音楽ソフトを購入している層の多くが、CD-R入手後はコピー主流派やコピー派に転じると予想され、CD-R普及後には、音楽ソフト総購入量の29%がコピーに転じ、その結果、コピー量は39%増加すると推測されています。

この報告書の結果に基づき、代表

者会議、連絡者会議で協議を重ねた結果、11月1日付で、権利者6団体による「民生用CD-Rの取り扱いについての要望書」を取りまとめました。

この要望書は、11月初旬、㈱ケンウッド、日本マランツ㈱、パイオニア㈱、ヤマハ㈱の機器メーカー4社に提出されました。

以下に、その要望書の全文を掲載します。

平成7年11月1日

被害予測調査結果に基づく 民生用CD-Rの

取り扱いについての要望

私達、録音物に係る著作権者、著作権接権者は、㈱野村総合研究所に依頼し平成6年12月より平成7年9月にかけて行った「民生用CD-Rの商品化に伴う著作権者等への経済的影響に関する調査」の結果を慎重に検討した結果、我が国における民生用

CD-Rの、家庭内録音機器商品としての今後の取扱いについて、次の通り行われるよう要望いたします。

1. 別紙調査結果で見ると、「CD-Rの普及後には、音楽ソフト総購入量の29%がコピーに転じ、その結果、総コピー量が39%増加することになると推計され」、こうした被害予測値から推定される事態の重大性に鑑み、民生用CD-Rは今後我が国において発売しないで頂きたい。

2. 私達の要望に反して、機器メーカーにおいて、民生用CD-Rを発売されるのであれば、予測される被害予測値を補填し得る補償金が支払われるよう配慮して頂きたい。

- (㈱)日本音楽著作権協会
- (㈱)日本芸能実演家団体協議会
- (㈱)日本レコード協会
- (㈱)音楽出版社協会
- (㈱)日本音楽事業者協会
- (㈱)音楽制作者連盟

以上

統計調査に ご協力ください 通商産業省

通商産業省では、平成7年12月31日現在で、工業統計調査及び石油等消費構造統計調査を同時に実施します。

工業統計調査は、製造業を営む事業者を対象として、その活動実態を調査します。

また、石油等消費構造統計調査は、従業者30人以上の製造事業所を対象として、従業員産業別、規模別、地域別に、我が国の産業のエネルギー消費の実態を明らかにすることを目的としています。

これらの調査結果は、国や地方公共団体等の行政の重要な基礎資料として利用されると共に、大学や民間の研究機関などにおいても広く利用されているところであります。

ご提出いただいた調査票については、統計法に基づき、調査内容の秘密は厳守されますので、数字等の正確なご記入をお願いいたします。

年末から年始にかけて、調査員がお伺いいたしますので、よろしくご協力の程お願い申し上げます。

(通商産業省)

「WIPO 専門家委員会の 検討に対する意見書」提出

来年2月1日から開催される、次回WIPOの専門家委員会（ベルヌ条約議定書及び実演家等の保護に関する文書）の会議において、日本政府がWIPOに提出する条約案の中に、レコード製作者の以下の権利が採択されることを求め、さる10月26日、文化庁に意見書を提出しました。

意見書の項目

1. レコードの輸入問題について
2. 送信権について
3. 私的使用のための複製について
4. レコードのサンプリング問題について
5. 複製権の問題について
6. 技術的手段について
7. 音楽著作物の録音の強制許諾について

以上7項目について国際的レベルで権利が認められるよう要望していますが、1番目の項目は経済状況の異なる国からの輸入に対して国内のレコード製作者の利益を保護するために、2～6番目の項目はデジタル化／ネットワーク化の時代のレコード製作者の権益保護のために必要で権利であると言えます。

まなびピア'95北海道で「不正商品防止フェア」開かれる

当協会が会員として参加している不正商品対策協議会は、9月28日～10月2日の5日間にわたり、札幌市アクセスサッポロ会場で開催された「第7回全国生涯学習フェスティバル」に出展参加し、「だめだめ!! ニセモノには気をつけて」のテーマで、「ほんと? ホント! フェア in 北海道コーナー」を設置いたしました。

コーナーでは海賊版CD・テープと当協会会員社の真生品を比較展示し、併せて、カラオケ教室での無断コピー防止を訴えたイラストパネルを掲示して、著作権意識の啓蒙を図りました。

その他、協議会会員団体のブランド商品、アーチストテレカ、Jリーググッズ、デイズニーぬいぐるみ等と海賊ビデオ等の多数のホンモノ・ニセモノが展示され、来場者は解説員からその見分け方等について説明を受けるなど、熱心に見学されました。

その他パソコンクイズ、ペーパークイズ、〇×クイズを連日実施し、不正商品に対する知識を広め、知的所有権の大切さを学んでもらうことができました。

アジア・ミュージックフェス ティバル・イントウキョウ'95

（勸業音楽産業・文化振興財団主催、通産省、文化庁、日本自転車振興会後援の「アジア・ミュージックフェスティバル・イン・トウキョウ'95」が、11月16日～18日に東京都渋谷区のオンエア・イーストにて開催されます。

今年で4回目となる本フェスティバルは、音楽によるアジア地域の交流、音楽の振興、著作権思想の普及を目的としたものです。

出演予定者は以下のとおりです。

11月16日/EAST END×YURI、B☆KOOOL、I WALK
11月17日/シャ乱Q、NAKARI
11月18日/佐藤聖子、アイジン

また、11月14日には、APEC大阪会議の協賛事業として、毎日放送大阪21世紀協会主催、音楽産業・文化振興財団、近畿通産局後援で、大阪市のATCホールにて「アジア・太平洋・ミュージックフェスティバル」が開催されます。

出演者は、L↑R、田村直美、ディックリー、トレーシーファン、シャリークワンが予定されております。

第44回オーディオ・ フェア開催

10月10日～14日の5日間にわたり、東京・豊島区の池袋サンシャインシティ・コンベンションセンターTOKYOにて、（財）日本オーディオ協会主催の第44回オーディオ・フェアが開催されました。

今年のテーマは、「マルチメディア時代へ、音と映像の新たな冒険」で、DVDの初の一般公開をはじめとして、MD、ビデオCD、FM文字多重ラジオ等の次世代メディアの各ブースが活況を呈しました。

また、今年初めての試みとなる、「DJパラダイススクラッチパフォーマンスショー」や、「オーディオ我楽多市」の各イベントも大変好評でした。

なお、今年の総入場者数は、昨年と同程度の13万人強でした。



日本レコード協会ヒットチャートデータによるランキング

平成7年9月度(8月21日～9月20日)のヒットチャートデータがまとまりました。これによる各ランクの5位までは次のとおりです。

順位	タイトル	アーティスト	発売元
■邦楽・洋楽合同シングル 5 位			
1.	Hello, Again ～昔からある場所～	MY LITTLE LOVER	(TF)
2.	空を見なよ	シャ乱Q	(BV)
3.	サヨナラは今もこの胸に居ます	ZARD	(BG)
4.	どんないいこと	SMAP	(V)
5.	シーソーゲーム ～勇敢な恋の歌～	Mr. Children	(TF)
■洋楽シングル 5 位			
1.	レディ・ラック	ロッド・スチュアート	(WJ)
2.	ライスラ・ボニータ/ ヒューマン・ネイチャー	マドンナ	(WJ)
3.	THE HIDEO NOMO SONG	THE LA FANS	(PC)
4.	シャイ・ガイ	ダイアナ・キング	(SME)
5.	ホールド・ミー, スリル・ミー, キス・ミー, キル・ミー	U2	(EW)
■邦楽・洋楽合同アルバム 5 位			
1.	Lady Generation ～淑女の時代～	篠原涼子	(SME)
2.	OPUS 21	杏里	(FL)
3.	スキヤットマンズ・ワールド	スキヤットマン・ジョン	(BV)
4.	サーカス	レニー・クラヴィッツ	(TO)
5.	SUNSHINE, MOONLIGHT	TOSHI KUBOTA	(SME)
■クラシックアルバム 5 位			
1.	アダージョ：カラヤン	ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮 ／ウィーンP.O	(PO)
2.	チャイコフスキー：交響曲第4番	小沢征爾／サイトウ・ キネン・オーケストラ	(MME)
3.	愛の喜び, メロディ, 浜辺の歌	今井信子	(MME)
4.	五嶋みどり アンコール!	五嶋みどり (Vn)	(SME)
5.	アカペラ 100%～ 聖なる祈りのうたごえ	VARIOUS	(BV)
■洋楽アルバム 5 位			
1.	スキヤットマンズ・ワールド	スキヤットマン・ジョン	(BV)
2.	サーカス	レニー・クラヴィッツ	(TO)
3.	タファ・ザン・ラヴ	ダイアナ・キング	(SME)
4.	ガール・パワー	シャンプー	(TO)
5.	ザ・グレイト・エスケープ	ブラー	(TO)

※日本コロムビア(C)/ビクターエンタテインメント(V)/キングレコード(K)/テイチク(TE)/ポリドール(PO)/東芝EMI(TO)/日本クラウン(CR)/徳間ジャパン(TJC)/ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)/マーキュリー・ミュージックエンタテインメント(MME)/ポニーキャニオン(PC)/ワーナーミュージック・ジャパン(WJ)/アポロン(AP)/フォーライフレコード(FL)/バップ(VAP)/トランスレコード(TA)/ポリスター(PF)/アルファレコード(AL)/キティエンタープライズ(KT)/ファンハウス(FUN)/イーストウエスト・ジャパン(EW)/BMGビクター(BV)/NECアベニュー(NA)/WEAミュージック(WEA)/メルダック(ME)/ハミングバード(HB)/TDKコア(TDK)/メディアレモラス(MR)/AXEC(AX)/トイズ・ファクトリー・レコード(TF)/バンダイ(BC)/パイオニアLDC(PI)/MCAビクター(MV)/ロックイットレコード(RO)/エイベックス・ディー・ディー(AV)/ピージ(BJ)/ツアインレコード(ZA)/BMGルーミス(BM)/ビーグラム(BG)/ワン・アップ・ミュージック(EP)

9 月度「ゴールド・アルバム」他認定作品

9 月度のゴールド・アルバム他が次のとおり認定されました。

■アルバム(17作品)

●クワドラプル・プラチナ

LA. LA. LA/大黒摩季 (BG)

●トリプル・プラチナ

SINGLES/氷室京介 (TO)

●ミリオン

THE VERY BEST OF UNICORN
／ユニコーン (SME)

WINTER SONG

／DREAMS COME TRUE (SME)

●ダブル・プラチナ

タファ・ザン・ラヴ/ダイアナ・キング (SME)

●プラチナ

Lady Generation～淑女の時代～

／篠原涼子 (SME)

スキヤットマンズ・ワールド

／スキヤットマン・ジョン (BV)

サーカス/レニー・クラヴィッツ (TO)

●ゴールド

OPUS 21/杏里 (FL)

SUNSHINE, MOONLIGHT

／TOSHI KUBOTA (SME)

百恵復活/山口百恵 (SME)

ユア・ザ・スター/ロッド・スチュワート (WJ)

ザ・グレイト・エスケープ/ブラー (TO)

レゲエ 200%/オムニバス (EW)

孤高のストレンジャー

／リッチー・ブラックモアズ・レインボー (BV)

オール・フォー・ワン

／オール・フォー・ワン (EW)

ガール・パワー/シャンプー (TO)

■シングル(16作品)

●クワドラプル・プラチナ

LOVE LOVE LOVE/嵐が来る

／Dreams Come True (SME)

シーソーゲーム～勇敢な恋の歌～

／Mr. Children (TF)

●トリプル・プラチナ

ロビンソン/スピッツ (PO)

●ミリオン

ズルい女/シャ乱Q (BV)

あなただけを/サザンオールスターズ (V)

●ダブル・プラチナ

Hello, Again～昔からある場所～

／MY LITTLE LOVER (TF)

突然/FIELD OF VIEW (ZA)

●プラチナ

空を見なよ/シャ乱Q (BV)

サヨナラは今もこの胸に居ます/ZARD (BG)

どんないいこと/SMAP (V)

●ゴールド

Replay/Mr. Children (TF)

好きになって、よかった/加藤いづみ (PC)

EYES LOVE YOU/hide (MV)

keep yourself alive/華原朋美 (PI)

SHAKE IT/T-BOLAN (ZA)

ファンタジー/マリア・キャリー (SME)

世界の話題

■1995年上半期

世界レコード売り上げ

このほど、I F P Iは、1995年の世界の主要31か国のレコード売り上げ上半期中間報告を発表しました。なお、昨年、これらの国で世界総売り上げの91%、CDアルバム売り上げ数量の93%、カセットの54%をカバーしています。

上半期のレコードの総売上推定金額は14%増加、CDの売上枚数は19%の増加、カセット売上巻数は9%の減少、LP売上枚数は18%の減少、シングル売上数量は15%増加となりました。

これは、今年も、CDが世界の主要なメディアであり、順調に成長していることを示しています。また、カセット売上巻数が、昨年上半年より減少傾向に拍車がかかった一方、LP売上枚数の減少割合は昨年の約1/2となりました。また、シングルの売上数量は15%増加し、これはごく一部の国の影響に因るものの、90年代のシングル市場の回復を示しているといえます。

主要各国の注目すべき点は、以下の通りです。

日本のCD市場は、主に輸入盤枚数の大きな伸びにより、1994年以降成長しています。輸入盤は、93年は僅か9%の伸びでしたが94年は43%増加しました。この成長は大量に並行輸入盤を扱う有力な外資の小売チェーンの日本市場への参入に因りますが、同時に国内

レコード産業へ大きな影響を与えています。

イギリス市場は、この上半期に著しい傾向を示しています。CD売上枚数が約28%増加した他、すべてのメディアで上昇傾向にあります。これは、95年上半期にいくつかの大型商品が発売されたことに因ります。

ラテンアメリカ市場は、主要市場の成功で状況が変わりました。ブラジル市場は、アルゼンチンとメキシコのレコード売り上げが不況の影響を受けている間にも、力強い成長を続けており、CDは、昨年上半年比2倍の売上数量となりました。メキシコでは、40%の通貨切り下げがあり、レコードの平均単価はUSドルで25%以上下落しました。

メキシコは、95年には世界のレコード市場のベスト10から落ちることが予想されます。

また、韓国が、日本を除くアジアで、今年初めて世界のベスト10に入るかどうかに関心が持たれます。(I F P I プレス 95/10/19)

中国

■CD海賊版への対策

中国の海賊版事情は、今までのカセット・テープからCDへと急速に変わってきていることから、同国政府は、今年に入り、国内にある約30のCD工場全てに対し、登録を義務付ける指令を出してい

ましたが、ほぼ最終段階に至っています。

登録に併せて、これらの工場に対し、工場とプレス機を識別するためのS I DコードのCDへの記録も義務付け、CDの海賊版の製造を防ぐ措置が講じられています。この運用のため、今年10月1日以降、S I Dコードの記録されていないCDを生産したり輸入したりすることが法律で禁じられ、来年1月1日以降は、この種のCDを販売することも法律違反とされることになりました。

更に、国内のCD工場がプレスを受注したり輸出をする場合は、事前にI F P I (国際レコード産業連盟)の許諾を得ることが義務付けられました。

国家版權局は、知的所有権保護の見直しと、海賊対策のため、次の4つの戦略を打ち出しています。

①知的所有権保護法の制定、②知的所有権保護法の執行機関の設置、③海賊版の嚴重取締、④国民に対する知的所有権の必要性の認知度高揚 以上の海賊版対策のほか、コンピュータ・ソフトウェア、映画等の権利保護の充実を図ると共に、北京大学には知的所有権思想の普及と専門教育を目的として、新しい学部を設けました。

このような対策の実施に先立ち、昨年後半には、実際に海賊版業者の取締まりを強化し、多数の海賊CDやLD、その複製機器等を押収し、厳しい罰則を適用しました。(I F P I アジアニュースから)

会議メモ (主なもの)

(10月1日~10月31日)

10・2 J A S R A C委員会

10・4 著作権部会

10・5 廃盤セールプロジェクト

10・5 営業部会

10・5 法制部会

10・5 Q盤プロジェクト

10・9 音楽ギフトカード委員会

10・11 レコード制作基準倫理委員会

10・11 調査統計部会

10・16 J A S R A C委員会

10・18 業務委員会

10・18 洋楽企画専門部会

10・23 ISRC DBプロジェクト

10・25 情報システム部会

10・26 洋楽宣伝専門部会

10・26 資材専門部会

10・26 ビデオ部会

10・27 理事会

1995年 9月レコード生産実績

数量：千枚・巻

単位

金額：百万円

表1. オーディオディスク

		9 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比
C	邦 洋	10,893	32	109	6,743	15	115	115,562	38	119	72,031	19	115
	計	267	1	114	130	0	95	2,299	1	117	992	0	90
	計	11,160	32	110	6,874	15	115	117,861	39	119	73,023	20	114
D	邦 洋	13,594	39	89	23,452	52	82	113,989	38	107	195,639	53	104
	計	9,764	28	142	14,334	32	140	69,339	23	118	103,340	28	116
	計	23,358	68	106	37,786	85	97	183,328	61	111	298,979	80	108
小計	邦 洋	24,487	71	97	30,195	68	88	229,551	76	113	267,669	72	107
	計	10,031	29	141	14,464	32	139	71,638	24	118	104,333	28	115
	計	34,518	100	107	44,660	100	100	301,189	100	114	372,002	100	109
アナログ	邦 洋	12	0	23	13	0	16	213	0	116	295	0	107
	計	1	0	4	3	0	5	130	0	60	259	0	65
	計	14	0	16	17	0	11	343	0	86	554	0	82
合 計	邦 洋	24,499	71	97	30,209	68	88	229,763	76	113	267,965	72	107
	計	10,033	29	141	14,468	32	138	71,768	24	118	104,591	28	115
	計	34,532	100	107	44,676	100	99	301,532	100	114	372,556	100	109

表2. オーディオテープ

		9 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比
カセット	邦 洋	2,159	99	83	1,853	99	82	17,613	99	83	14,874	99	84
	計	24	1	65	27	1	67	198	1	71	215	1	67
	計	2,183	100	83	1,880	100	82	17,811	100	83	15,090	100	84
カートリッジ	邦 洋	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	邦 洋	2,159	99	83	1,853	99	82	17,613	99	83	14,874	99	84
	計	24	1	65	27	1	67	198	1	71	215	1	67
	計	2,183	100	83	1,880	100	82	17,811	100	83	15,090	100	84

表3. 複合型CD (CDグラフィックス、CD-I、CD-ROMなど)

		9 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比
邦 盤	邦 盤	6,053	100	255	2,388	96	110	35,069	100	220	15,155	98	100
	洋 盤	25	0	1,946	94	4	8,066	157	0	313	285	2	379
	合 計	6,079	100	256	2,482	100	114	35,226	100	220	15,440	100	101

表4. ビデオレコード

		9 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比
ディスク	邦 洋	1,328	35	79	3,529	30	79	10,597	38	88	30,950	34	83
	計	2,505	65	146	8,118	70	126	17,601	62	133	60,657	66	116
	合 計	3,833	100	113	11,647	100	106	28,198	100	112	91,607	100	103

表5. オーディオ/ビデオ/AV複合型レコード合計

		9 月 実 績						1995 年 (1 月 ~ 9 月) 累 計					
		数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比	数 量	構 成 比	前 年 同 月 比	金 額	構 成 比	前 年 同 月 比
オーディオ	邦 洋	36,715	79	105	46,556	77	98	319,343	83	111	387,646	78	108
	複合型CD	6,079	13	256	2,482	4	114	35,226	9	220	15,440	3	101
	ビ デ オ	3,833	8	113	11,647	19	106	28,198	7	112	91,607	19	103
合 計	邦 洋	46,627	100	114	60,685	100	101	382,768	100	117	494,692	100	106
	複合型CD	6,079	13	256	2,482	4	114	35,226	9	220	15,440	3	101
	ビ デ オ	3,833	8	113	11,647	19	106	28,198	7	112	91,607	19	103

備考 1. 本年実績は、会員会社「30社」の集計である。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

人口の将来動向とレコード購入者率

本号は、将来のレコードマーケットを考える基礎となる
 年齢階級別人口の将来動向を総務庁統計局「平成6年10月
 1日現在推計人口」と厚生省人口問題研究所編「日本の将
 来推計人口」から、また、年齢階級別のレコード購入者率
 を日本レコード協会の調査データを基に紹介します。

図 年齢階級別人口の将来動向

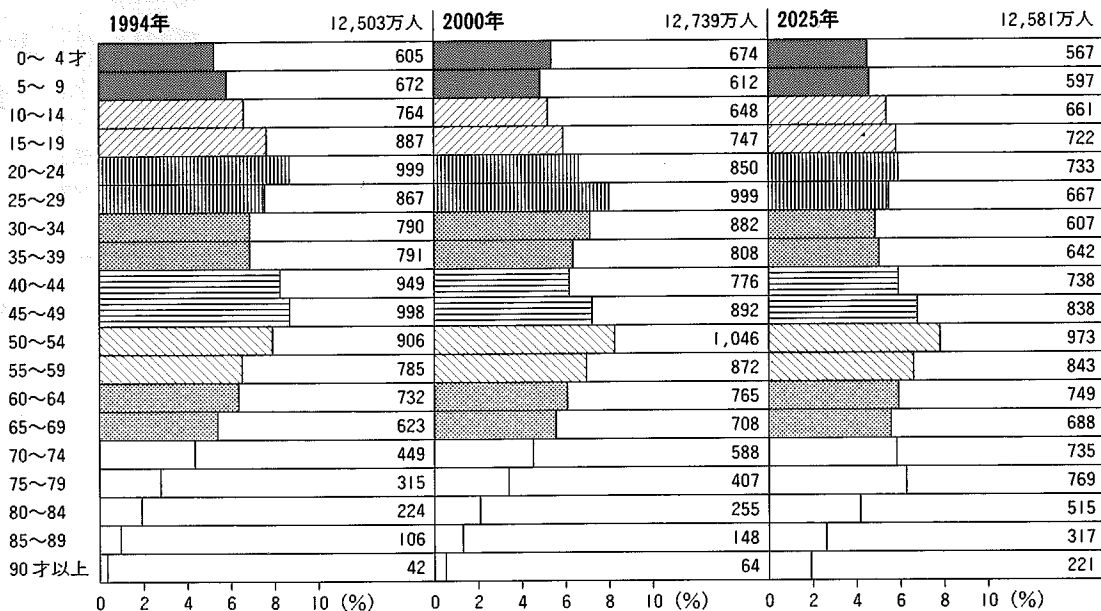


表 年齢階級別種類別レコード購入者率

単位：％，n=500（1993年），n=355（1994年）

		CD シングル	CD 〔CDシング ルを除く〕	EP	LP	ミュージッ クテープ	ビデオ テープ	ビデオ ディスク
13～15才	1993年	51.1	51.1	17.8	11.1	8.9	15.6	4.4
	1994年	75.7	73.0	—	—	10.8	10.8	—
16～19才	1993年	52.9	73.5	8.8	5.9	5.9	19.1	4.4
	1994年	60.3	74.1	5.2	1.7	—	5.2	1.7
20～24才	1993年	43.1	68.3	2.4	4.9	6.5	22.8	4.9
	1994年	57.1	84.4	1.3	—	6.5	24.7	2.6
25～29才	1993年	25.5	52.9	2.0	1.0	10.8	35.3	3.9
	1994年	47.7	66.2	1.5	1.5	3.1	21.5	1.5
30～34才	1993年	23.2	45.1	1.2	1.2	18.3	31.7	0.0
	1994年	23.2	55.4	—	—	10.7	12.5	1.8
35～39才	1993年	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0	23.8	2.5
	1994年	25.8	40.3	—	—	11.3	12.9	—
全 体	1993年	34.6	56.0	4.0	3.4	11.6	25.8	3.4
	1994年	47.0	65.9	1.4	0.6	6.8	15.5	1.4

〔注〕購入者率は、各年とも11月の調査時点から遡った1年間にレコードを購入した人の割合。